

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年4月27日（月）17：45～18：05

場所：内閣府

【冒頭発言】

24日は、午後2時から6時過ぎまで、物品市場アクセスのテキストの前日からの続きとNCM（非適合措置）を行い、25日は、午後一で投資を行う予定であったが、後で説明する理由によりキャンセルとなり、夕方、繊維について議論をした。26日は、午前9時から知的財産、その後、物品市場アクセスのテキストの議論をし、午後2時過ぎに終了となった。

知的財産は、今回の会合でかなり時間をかけて議論したが、正直、中々難しく、閣僚で議論をする課題も含めてある程度整理しようということではまったが、閣僚マターまでは行き着かなかった。事務レベルの案件はいくつか整理されたが、数が多いので、整理すべき点が少なからず残っているという状況。

今回会合の特徴として、首席交渉官の全体会合は長い時間行っていない。首席交渉官の全体会合の時間を極力短時間にし、分野別のワーキンググループの交渉官同士で、バイや少数国での協議をどんどん行い、各国の首席交渉官はその指導に当たるというやり方をとった。

投資は、首席交渉官でも議論する予定であったが、我が国を含めた交渉官同士のバイや少数国の協議が軌道に乗り、いい方向で整理されそうだという報告を受けたので、交渉官を呼んで首席交渉官に報告させるより、そのまま続けさせようということになり、首席交渉官での議論はキャンセルとなった。後で報告を聞くと、閣僚会議に向けた整理がかなり進んだということである。

物品市場アクセスは、テキストのうち、テクニカルであり、他の章にもまたがるため首席交渉官で扱わざるを得ないものがあるが、そのような論点、前回のハワイ会合から議論し始めたのだが、今回の会合でほぼ整理された。

分野別のワーキンググループは、12か国の全体会議は行っていないが、知的財産、投資、物品、繊維、原産地規則、NCMIについて、それぞれの交渉官が現地に集まり、バイや少数国の会合が精力的に開かれた。

鶴岡首席交渉官は、25日、26日とそれぞれ1か国の首席交渉官とバイの協議を行った。

物品市場アクセスの交渉官レベルでは、3か国とバイの協議を行った。

大江首席交渉官代理は、今回の会合の会場であるナショナル・ハーバーに滞在し、米国以外の1か国と協議を行った。米国とは、24日にカトラ一次席通

商代表代行と、25、26日にベッター首席農業交渉官と、先日の日米閣僚級協議を受けた事務レベル協議を行った。大江代理は、現地時間27日も引き続きカトラー氏と会う予定。森経済外交担当大使も26日にカトラー氏と協議を行った。このように、日米の事務レベルは引き続き行っており、終わるという感じではない。

今後の予定であるが、12か国の首席交渉官会合で何も話が出なかったわけではないが、少なからず課題が残っている状況の中で、閣僚会合については、何ら決まらずに終わった。ただ、どのような形であれ、最低でも首席交渉官会合からセットされることになると思うので、そのセットは、各国が持ち帰った宿題の処理状況なども踏まえて今後調整されていく。

【質疑応答】

(記者) 今回の会合の総括は？

(澁谷審議官) 一定の進展が見られた。引き続き難しい課題が残されているが、今次会合での進展を踏まえ、今後も交渉を加速し、閣僚の政治判断を仰いで交渉を妥結することができるよう各国が最大限努力していくということ。

(記者) 一定の進展とは、投資などを指すのか。

(審議官) そういうこと。知的財産も全く進展しなかったわけではない。

(記者) 引き続き難しい課題とは、知的財産を指すのか。

(審議官) 知的財産がメインだろう。

(記者) TPAの審議が始まったが、それがあったから進展があったのか、それとも、まだ審議中なので、進展しなかったのか。

(審議官) それが大きく影響したという感じより、これまでの交渉の継続で、知的財産が劇的に動いたという感じがしないのは、物品市場アクセスも含めた他の分野の進展も横目で見ながら、簡単にカードを切る状況でなかったということではないか。

(記者) 鶴岡首席交渉官は日米の状況について説明したかと思うが、どのような話があったのか。

(審議官) 各国がそれぞれ最新状況を説明して終わったと聞いている。

(記者) 知的財産は、カードを切るというところまで進まなかったというが、

主張の隔たりがあるということか。

(審議官) 主張の隔たりは前からある。論点は十分出し尽されているので、前々回会合辺りから、なるべく論点毎に国毎の主張が分かるように整理し、どの国とどの国のバイで片付ければいいのか、課題をパッケージで整理した。今回、これに基づいてバイや少数国を相当行った。そういう意味では、どの国がどこでどう降りれば片付くのか、お互いだいぶ見えている状況。あとは、いつ、各国がそのような判断をするか。そういう雰囲気であれば、割と早く終局の方向に向かうようなところまで議論は整理されている。

(記者) 医薬品特許、著作権、地理的表示は、今回も方向感が出なかったのか。

(審議官) これでまとめようという雰囲気にはなっていない。

(記者) 鶴岡首席交渉官は、出発前に、日米の進展を示し、今回の会合を進展させたいと言っていたが、その期待に比べてどうだったか。

(審議官) 首席交渉官会合を行うたびに、当初の期待と比べてどうかと問われるが、いつもの通りということ。

(記者) T P Aが審議に入ったが、上下両院で成立までは見通しが立っていないことも、各国カードを切る前提条件が揃っていないということで、影響があったのか。

(審議官) T P Aが成立していないからカードを切らないと公言する国はない。お互い、見合っている状況が続いているということ。

(記者) 国有企業も見合っているという状況か。

(審議官) 国有企業は、交渉官は集まっていない。どちらかというところ、ワーキングレベルでの議論がだいぶ進みつつあるので、ナショナル・ハーバーに集まらずに交渉官同士の連絡で議論を進めるという状況。

(記者) 投資は交渉官レベルで整理が進んだというが、I S D Sは以前から最終的に閣僚でけりをつけるという話だった。例えば、I S D Sの例外をどうするかなどについては、交渉官レベルで議論されているのか。

(審議官) 投資は、知的財産や国有企業と違い、I S D Sも含めて通商交渉では馴染みのある分野なので、整理の仕方が、他分野と比較して見やすいということだと思う。閣僚レベルに上げる案件だと思うが、各国が持ち帰って国内の調整をし、それを最後の閣僚会議で最終調整という、通常通商交渉で

行われるようなプロセスにはまっているということ。

(記者) 国有企業がワーキングレベルで進んでいるということだが、適用除外の範囲についてのリストは解決したのか。

(審議官) 解決はされていないが、解決すべく努力しているという状況。

(記者) バイや少数国間でということか。

(審議官) バイや少数国でお互いに悩みを聞きながら、どうするかということを実行している。最終的には閣僚レベルで決着だと思うが、閣僚レベルで何を詰めれば最終的決着になるのかということまで事務方で整理しようという意識は共有されている。

(記者) 日米は、閣僚で確認した内容を大まかに話せば済むようなことなのか、それとも、まだまだテクニカルに整理しないといけないものが残っているのか。

(審議官) 話せば済むようなレベルでは全くない。テクニカルかつ、時間が掛かるもの。

(記者) 次回の首席交渉官会合については、どのように判断されるのか。

(審議官) 各国宿題を持ち帰っており、今回集まらなかった国有企業などもあるので、これらの調整状況、ワーキングレベルでマルチで調整している状況と、各国持ち帰った宿題の国内の調整状況などをどこかで確認しながら、判断されると思う。

(記者) 日米の事務レベル協議は、先日の閣僚級協議の確認以外に、事務レベルで扱う内容が協議されているのか。

(審議官) 先日の日米の閣僚級協議は、大きな進展があったとはいえ、詰めないといけない課題が残っている状況で、それを事務レベルで詰めさせるというのが閣僚の指示であった。なので、閣僚同士で確認したことを再確認するというよりは、中身の詰めの議論をしているということ。

(記者) ある程度前進はあったのか。

(審議官) 今まさに協議を行っている最中。

(記者) まだ行っているということだが、日米首脳会談までなのか、それとも、その後も行うのか。

(審議官) 首脳会談とリンクさせているわけではないが、結果として首脳会談の直前まで行うことになりそうな雰囲気ではある。

(以上)